

平成22年度 新入生オリエンテーション

安武 芳紘
Yoshihiro YASUTAKE

九州産業大学 情報科学部 情報科学科
Faculty of Information Science, Kyushu Sangyo University
yasutake@is.kyusan-u.ac.jp, <http://www.is.kyusan-u.ac.jp/~yasutake/>

1. はじめに

4月に入学したばかりの新入生が大学生活にいち早く馴染むことができるよう、情報科学部では合宿形式の新入生オリエンテーションを毎年実施している。例年目標を「友人ができること」と「学業のスタートを切ること」に設定し、それらに適したイベントを合宿中に行ってきた。今回は「友人ができること」を目的としたイベントを専門家を招き実施した。「学業のスタートを切ること」については情報科学部の上級生による学生生活紹介や時間割作成を例年どおり行った。今回はこれらについて紹介することにする。

2. 概要

平成22年度の新入生オリエンテーションは4月5日(月)、6日(火)にグローバルアリーナ(福岡県宗像市)にて行った。参加者は新入生136名と教員18名、上級生17名、総勢139名であった。

スケジュール(表1)を紹介する。4月5日は午前中に県警講演会や学友会紹介などがあった。午後はまず始めに基礎ゼミナール(前期の授業)ごとに教室に分かれてもらい、教員とゼミナールの学生の顔合わせをした。次に12107教室に全員が集合し出発式のあとバスで合宿地のグローバルアリーナへ移動した。移動後はそれぞれのロッジにチェックインし荷物を整理した後、体育館へ集合し専門家によるコミュニケーションワークが行われた。夕食をはさんで再び体育館で上級生による学生生活紹介が行われた。その後入浴と消灯。2日目の4月6日は朝食と清掃を終えた後にロッジをチェックアウトし、体育館へ集合した。そこで基礎ゼミナールごとに輪になり時間割作成を行った。最後にバスの号車ごとに写真撮影をし大学への帰路についた。大学到着後12107教室に集合して解散式を行った。この日の午後はさらに新入生の健康診断が行われた。一方、上級生は会議室にて反省会を行った。

3. 準備と実施

新入生オリエンテーション実行委員の4名の教員が中心となり、12月中旬に情報科学部の学生を対象にスタッフ募集を行った。1~3年生を中心とした学生(上級生)

4月5日(月)	
13:00-13:30	基礎ゼミナール
13:30-13:35	出発式
13:45-14:45	グローバルアリーナへ移動(貸切バス)
15:00-15:20	チェックイン
15:30-17:30	コミュニケーションワーク(体育館)
18:00-19:30	夕食
20:00-21:30	学生生活紹介(体育館)
21:30-23:00	風呂、消灯
4月6日(火)	
7:00-8:30	朝食、清掃
8:45-9:20	チェックアウト
9:30-11:30	時間割作成(体育館)
11:30-12:00	写真撮影
12:00-13:00	九州産業大学へ移動(貸切バス)
13:00-13:05	解散式

表1 スケジュール

が集まり2月上旬にキックオフミーティングを開催した。また、顔見知りではない学生同士が集まっているため親睦を深めることも兼ねてキックオフ懇親会を行った。

プレゼンテーションは当日までに3度の発表練習をし、クイズ内容の検討、作成や景品の買出しをした。また、学部互助会の援助でスタッフジャンパー(図1)もデザインし作成した。当日に近くなると、合宿のしおりや時間割用紙の作成、当日の役割の確認なども行った。上級生スタッフは当日までにおよそ10回以上のミーティングを開き準備をした。



図1 スタッフジャンパー

今回はレクリエーションをキャリアコンサルタントの荒武勢津子先生らにお願いし、学生生活紹介は上級生が

担当した。上級生は「新入生が楽しめるような形で学生生活紹介をする」ことをテーマに決め、学生の視点からのプレゼンテーションをすることや、プレゼンテーションの間にクイズを入れて点数をつけ景品を配ることを企画した。

3.1 レクリエーション

キャリアコンサルタントの荒武勢津子先生はじめ数名の専門家の方によりコミュニケーションワークが行われた。100名を越える新入生は互いに緊張感があつたが、このレクリエーションにより暖かい雰囲気が合宿を通して作られることとなった。合宿地にお出でいただきコミュニケーションワークを実施していただいた先生方に、この場を借りて感謝を申し上げる。

3.2 学生生活紹介と時間割作成

上級生による学生生活紹介の時間は、1年次に開講されている科目や単位の取得方法について説明があつた。その他にも学内の建物や情報システム研究会の紹介を写真や研究会が作ったプログラムなどを交えながら行われた(図2)。上級生が作ったスライドは情報科学部学生用Webページに掲載されており、学生は合宿後も参照することができる。



図2 学生生活紹介

4. アンケート結果

最後に新入生を対象に行ったアンケートの結果を紹介する。オープンキャンパス全体の感想は大変有意義、かなり有意義、有意義、あまり有意義がない、全然有意義がないの5段階の回答を用意した。結果(図3)は大変有意義が23%、かなり有意義が31%、有意義が40%であり、全体としてオリエンテーションを行ったことは意味があつたことが分かる。自由記述には「先生だけでなく、先輩がたの意見も聞けたのでよかったです。」「このオリエンテーションで友達がたくさんできて、楽しかったです。」などの感想が見られた。

他のアンケート項目で特に顕著な結果が出たのは時間割作成の回答である(図4)。半数近くの新入生が大変有

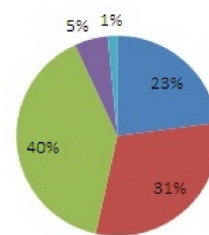


図3 オープンキャンパス全体

意義と回答しており、かなり有意義を加えると75%になる。科目を選択し時間割を作るという作業が初めての新入生には、基礎ゼミナルごとに輪になり教員や上級生と相談しながら時間割を作っていく機会は有意義だと評価されたのだと推測する。

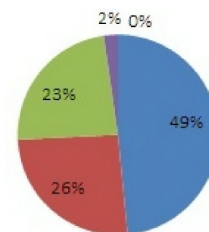


図4 時間割作成

日程(図5)については現状で1泊2日で良いが60%、日帰りが良いが37%である。日帰りが良いとする主要因を自由記述からの推測すると、合宿前後に健康診断などの日程がつかまっていることや、合宿形式に意義を感じないことのようなのである。

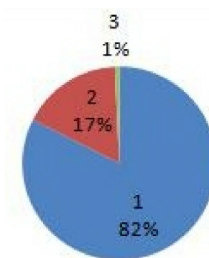


図5 日程

5. まとめ

新入生が学生生活をスムーズに開始するためという意味では今回の新入生オリエンテーションは有効であつたと考える。しかし、入学後にも学生生活に馴染むことが苦手な学生が少なからず存在する。そこで、学生同士がコミュニケーションをとることができる機会を継続的に大学が用意することが必要になってきているのではないかと思う。